十人十色

令和４年５月６(金)
縄瀬　保育園
池之上　俊江
ＮＯ．３

日本語の素晴らしさ

ある朝、年長の女児が鞄から取り出した洋服を一枚一枚丁寧に畳み、ボックスの中へ補充していました。一時見ていた私は「丁寧に畳んで感心ね。」と声を掛けると女児は手を止め「感心ってどんな意味？」と問います。「丁寧に畳む〇〇ちゃんの姿が凄いな、素敵だなって意味だよ」と答えると「へぇ～。そうなんだ。」と言いながらまた服を畳み始めました。日本語は奥が深く、難しい言語です。諸外国の方々が日本語に興味を持つほど、日本語には特有の美しさがあります。子ども達に関わる際に、私達は丁寧な言葉掛けと正しい日本語を使う様に心掛けています。それは、様々な情報を吸収する乳幼児期は身近にいる大人の言葉を真似るからです。聴覚的情報として脳に伝わり、自然と自分でもその言葉を話そうとします。語りかける大人が正しい日本語を使うことで今回の様に子ども自身が言葉に興味を持ちます。その時に丁寧に説明する事でいつか自分でその言葉を使う日がくるのです。遊びの中で子ども達の会話を聞いていると「素敵」「解決」「相談」「間違ってる」と高度な言葉が次々と飛び交います。それは主体的な環境の中で子ども同士の関わりが生み出しているものです。関わりの中で語彙力も自然と身につけています。３ 歳児が「相談しよう！」と数名で話す姿は可愛いものです。年上の友だちが使っていた言葉に興味や憧れを持ち、真似るのです。いつか意味を理解する日が来るのでしょう。日本人に生まれた誇りとして美しい日本語を子ども達へ伝えていきたいと思います。地域の方々と話すと、聞いた事のない言葉が飛び交います。昔からの「もろかた弁」です。私はその度に意味を聞いています(笑)地域の方々も「先生は知らんどがぁー」と様々な言葉を教えて下さいます。私も新任から田舎弁の強い上司と過ごしてきましたがまだ勉強です。情報化社会になり、他国の言葉を簡単に学べる便利な時代になりました。私も英語に憧れ、よく海外に旅をしました。英語が喋れるとかっこいいですし、社会が広がる利点もあります。ですが、まずは日本人として沢山の日本語に出会い、話して、理解する経験をしてほしいです。

花を飾る・・

毎朝、鮮やかな花を手に登園するすみれ １ 組の女の子。自宅の庭先に咲く花を摘む事が登園前の日課となっているそうです。テラスの飾り棚に毎朝、担当が飾ると満足げな顔をしています。色とりどりの花に囲まれて過ごしています。花は私達にゆとりと癒しをくれます。それは、大人だけではなく子どもも同じです。ひまわり組の子ども達も散歩で草花を摘み、それをクラスに飾ったり、お地蔵さんにお供えしたりします。庭先の花を摘んで、飾る経験が喜びになっている １ 組の女の子。小さい時から生活の一部に花を飾る環境があり、それが周りにも喜びや癒しを伝えてくれます。私が尊敬する上司には、花に詳しい方が多くいました。花を飾る、植える為には花への知識、バランスやセンスが必要ですが、何より花への愛情が大切です。こまめに水をあげる事や美しさに感謝する事を教わりました。自然とその愛情が子ども達や周りの職員へ向けられるのだと思います。私事ですが、３ 月にある方から一輪挿しの贈り物を頂きました。今年は花を飾るゆとりを・・と言葉を添えて。愛情や優しさに感謝でした。昨年は無我夢中で突っ走り、気がつけば３月。今年は園の子ども達と畑を耕したり、散歩に出かけたり当たり前の日常をもう少し大切にしたいと思います。休日は娘と散歩で摘んだれんげや庭のチューリップを一輪挿しに飾っています。花を飾る事で気持ちが明るくなり、「頑張るぞ」と意欲が出ます。花の力に改めて感謝しています。今年は花を飾るゆとりある時間を作れたら・・と思いました。

アヒルのしろちゃん、くろちゃん

園に訪れた方がくろちゃんとしろちゃんを見て驚かれる事は多いです。アヒルを飼っている保育園は県内でもそうないでしょう。一年前の ４ 月。いつもの様に園庭を散策していたしろちゃんが突然、大きく羽ばたいて道路へ。慌てた職員と一緒に後を追いましたが姿がありません。異動してきたばかりの私は前園長が可愛がっていたアヒルを逃がすわけにはいかないと必死で探し・・鳴き声が園の赤い屋根の上から。３ メートル近くの屋根に震えながら上がり、怖がるしろちゃんを必死で説得します。しろちゃんも意を決して園庭へ羽ばたきくろちゃんの元へ帰りました。この出来事から私とアヒル達の距離が一気に近づきました。今では毎日「おはよう」の挨拶から色々な会話をしています。こちらの語りかけに答えるかの様に鳴く二羽が可愛らしいです。今思えば屋根から飛び立つしろちゃんの顔は「頑張れよ！」と新人園長の私へ伝えたかったのかなとも思えます。動物は癒しをくれます。その感謝をきちんと伝えていこうと思いつつ、アヒルって飛ぶんだ！！と貴重な経験ができた日を思い出しました。